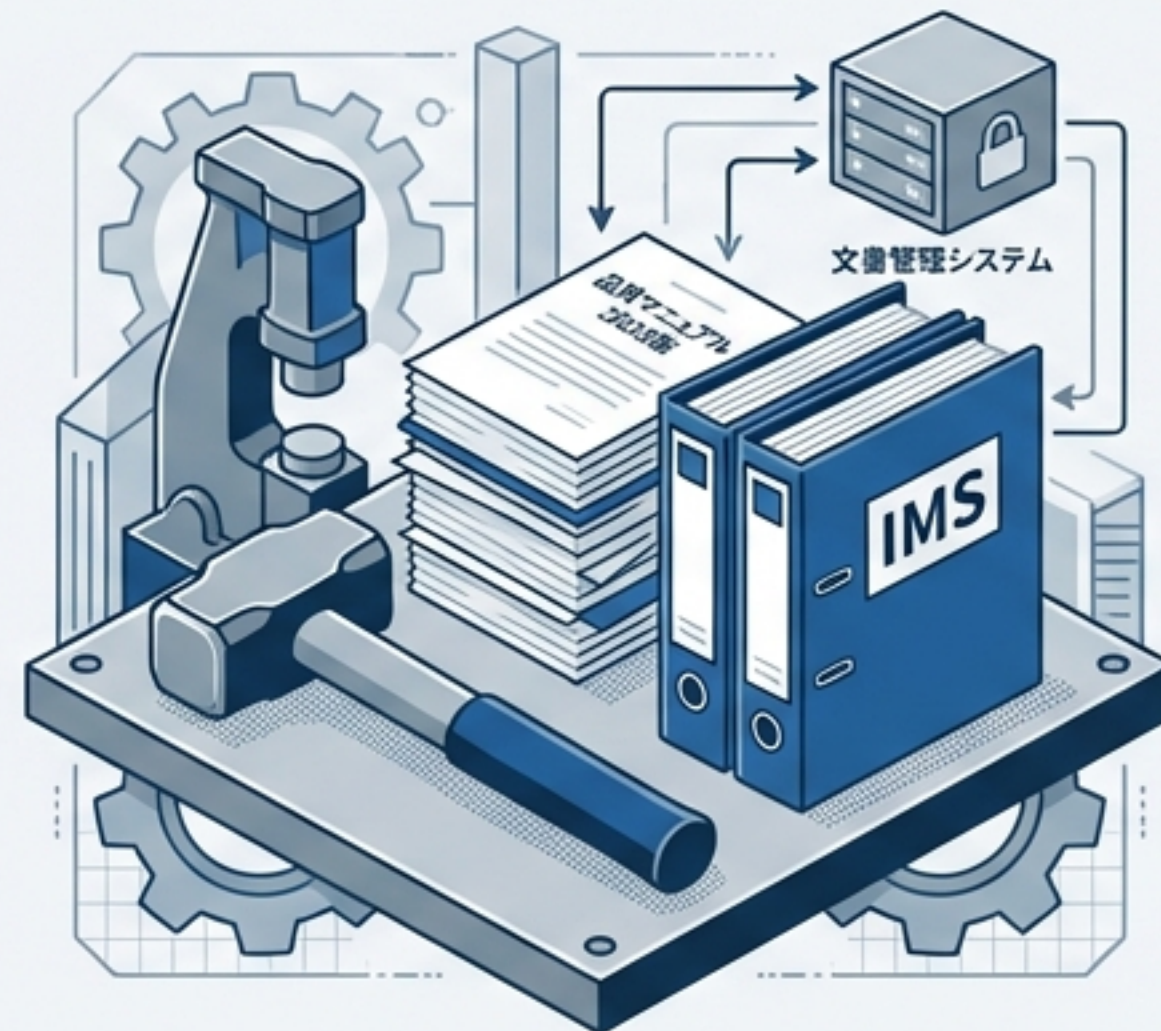


豊和鍛工株式会社

豊和鍛工流・ISO勉強会 Series 7 of 10

# 第7回：ルールの共有と証拠の保管

～文書と記録の正しい付き合い方～



2025年1月26日

# 正直、「記録なんて面倒くさい」 と思っていないですか？



ISOにおける文書・記録は、事務局のためではありません。  
「あなた自身を守るための盾」であり、  
「プロの仕事の証明」です。

# 「文書」と「記録」の決定的な違い

ISO 7.5項「文書化した情報」には2つの種類があります

## 文書 (Document)



= ルール

維持する (Maintain)

最新版に更新し続けるもの

- 手順書
- 図面
- 規格



Recipe Book

## 記録 (Record)



= 証拠

保持する (Retain)

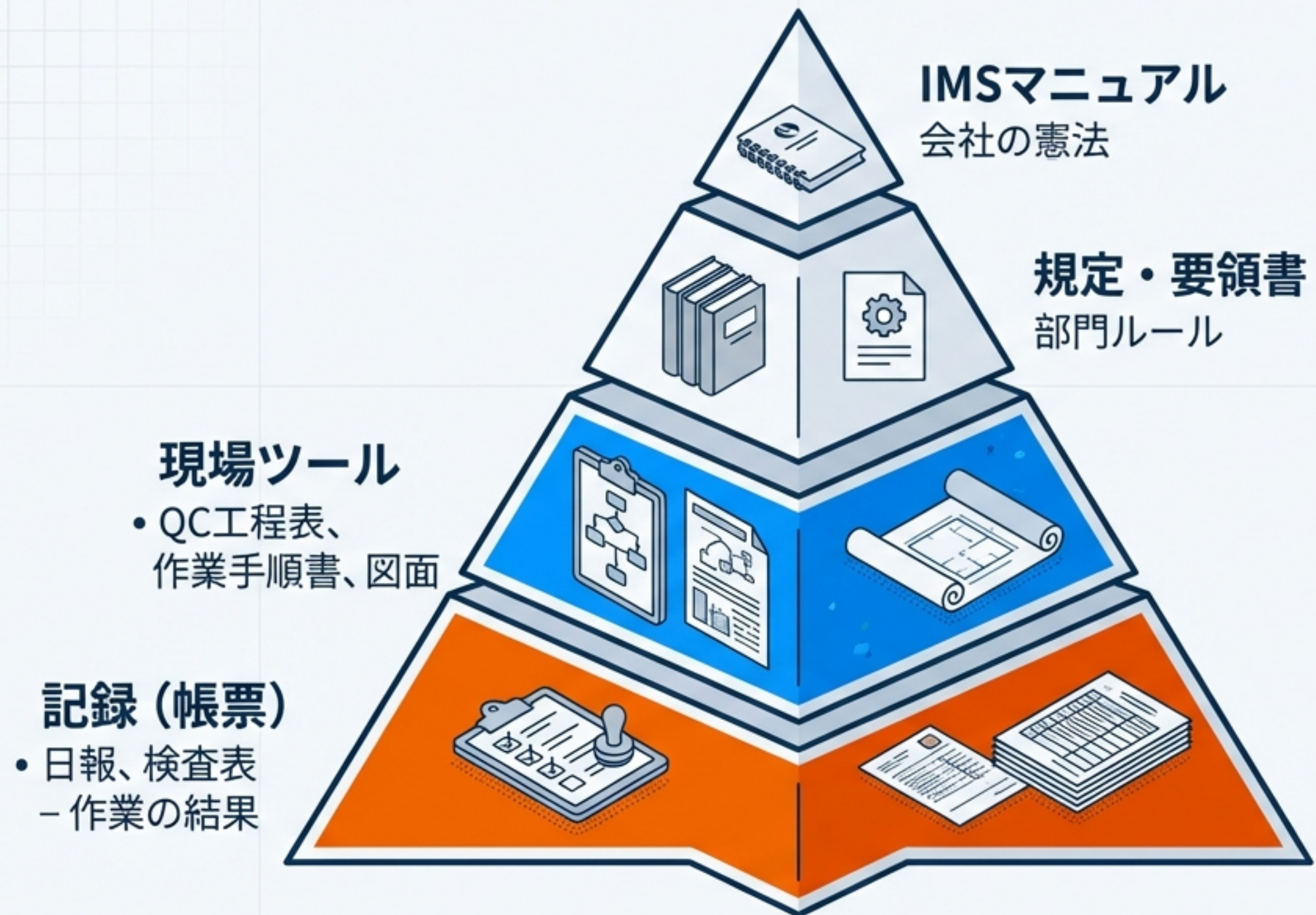
書き換えてはいけない、  
事実の証明

- 作業日報
- 検査表
- 教育記録



Photograph of a finished meal

# 豊和鍛工の文書ピラミッド



現場が扱うこの部分  
こそが、豊和鍛工の  
品質保証体制の  
実体です。

# 現場の鉄則①「最新版を使う」

## 課題：

古い図面や手順書での作業は、最大の不適合（ミス）の原因です。

## アクション：

- ・作業前に必ず「版数（Rev.）」を確認する。
- ・「この手順書は最新か？」と疑う癖をつける。



# 現場の鉄則② 「その場で、正確に書く」 「記憶より記録」

後でまとめて書くと記憶が曖昧になります。空欄は「やっていない」とみなされます。



- 作業が終わったらすぐ書く

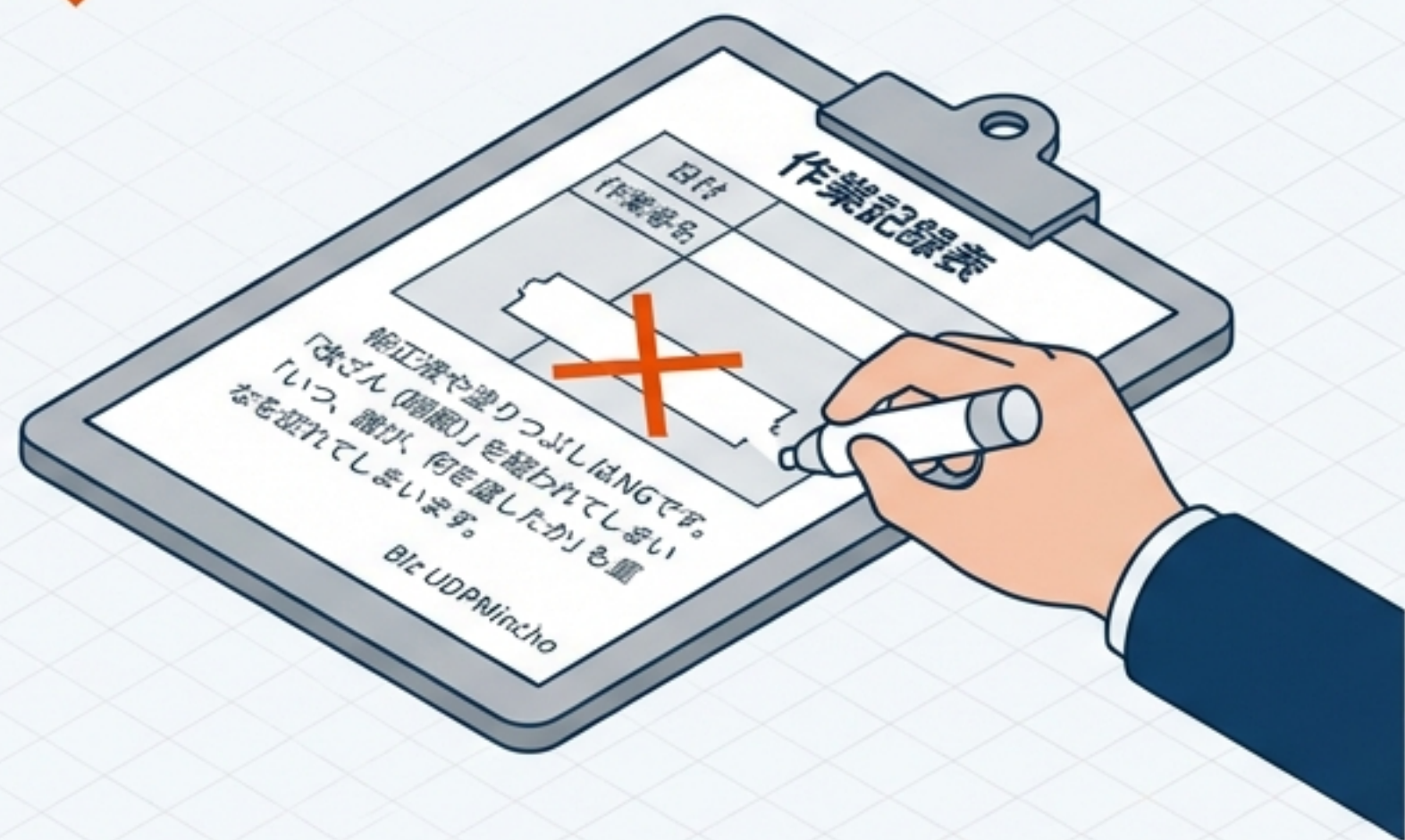
- 数値・日付・氏名を漏れなく記入

# 現場の鉄則③ 「修正はルール通りに」

修正液や塗りつぶしはNGです。「改ざん（隠蔽）」を疑われてしまいます。  
「いつ、誰が、何を直したか」も重要な証拠（トレーサビリティ）です。

**×** 修正液・塗りつぶし 禁止

**○** 二重線 + 訂正印 + 正しい値



# ケーススタディ：なぜ「記録」があなたを守るのか？

顧客から「納入された製品に傷がある」とクレームが入った場合...



## 記録なし

「ちゃんとやりました」と主張

証明不可能

信用失墜・  
個人の責任



## 記録あり

「検査記録表」を提示  
(○月○日 合格判定)

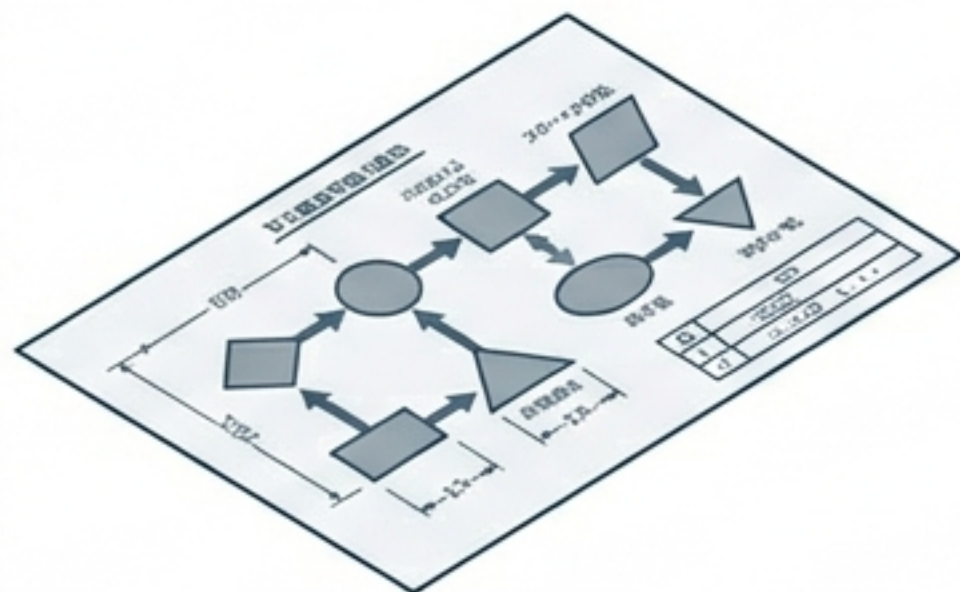
出荷時の  
正常を証明

堂々と説明できる  
(トレーサビリティ)

**記録は「仕事のプライド」を残す作業です。**

# 私たちの身近にある重要帳票

## QC工程表



記録を書くタイミングの  
指示書

## 作業日報・検査記録表



品質の証拠 (Evidence)

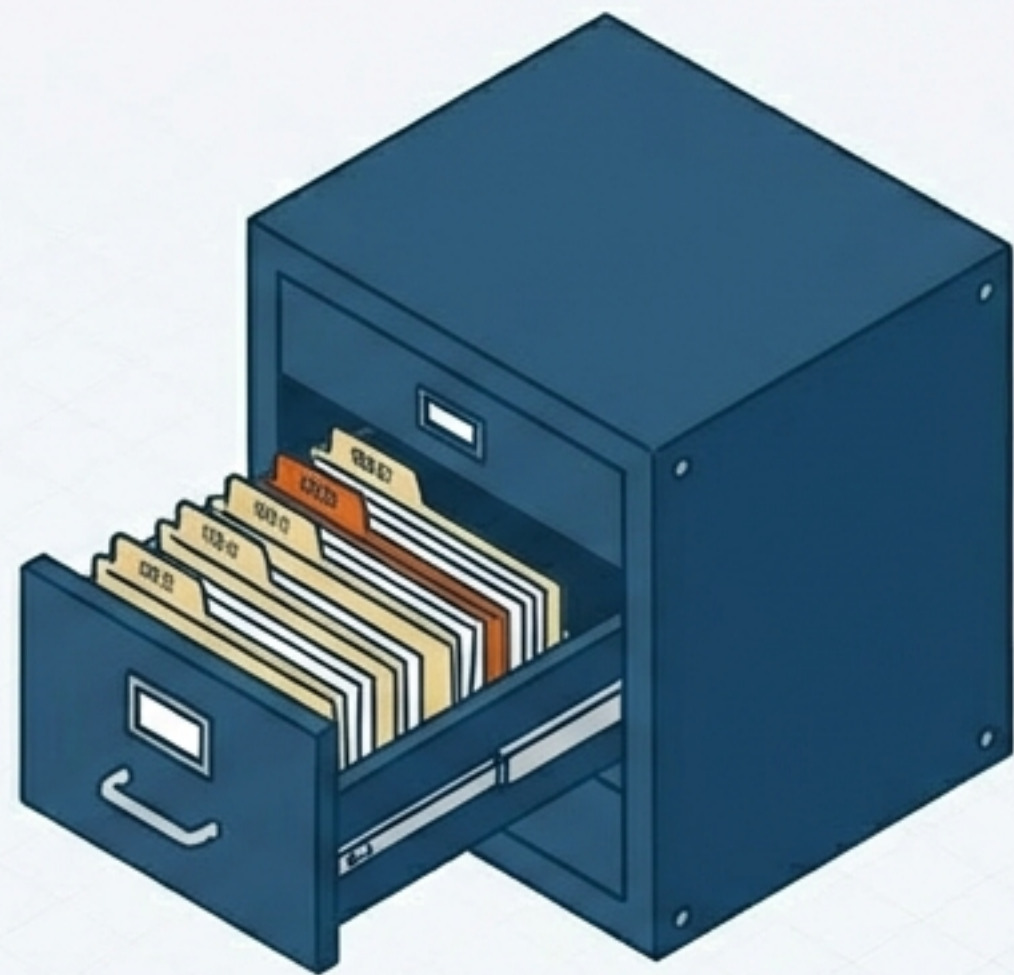
## 文書・記録管理規定



保管期間や廃棄ルールを  
決めたもの

アクション：明日、自分の現場にあるこれらの書類を確認してみましよう。


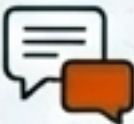
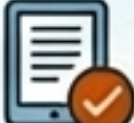
# 「捨てていい」のはルールが~~ま~~決めてから



- 📄🕒 • 記録には「保管期間」があります（例：3年、5年、7年）。
- 📄IMS • IMSマニュアル 7.5.3項に基づき、読みやすく、検索可能な状態で保管。
- ⚠️ • 勝手な廃棄は、会社の歴史と証拠を消すこととなります。

# 「書きにくい」は改善のチャンス



-  ・もし、「項目が多すぎる」「書きにくい」と感じたら？
-  ・我慢して書くのではなく、声を上げてください。
-  ・「デジタル化」や「フォーマット変更」で、もっと楽に、正確にできるかもしれません。

この視点は、第10回「改善」に繋がります。

# 第7回のまとめ

**1** 文書は「最新版」  
を使う  
Rev.チェックを忘れずに



**2** 記録は「事実」を  
消さない  
修正液NG、二重線訂正



**3** 記録は自分を守る  
「盾」である  
プロの仕事の証拠を残す



# マネージャーからのメッセージ

「記録は面倒な事務作業ではなく、  
自分の仕事の正しさを  
証明する行為です。」



現場でペンを持つその手は、豊和鍛工の信頼を守っています。  
今日から、「書かされている」ではなく「自分のために書く」へ意識を変えていきましょう。

# 次回予告

## 第8回 「品質は工程で作る！ 現場の運用の合言葉は『識別と追跡』」

いよいよモノづくりの本丸、現場運用について。

「識別」と「トレーサビリティ」がなぜ重要なのか？



豊和鍛工流・ISO勉強会